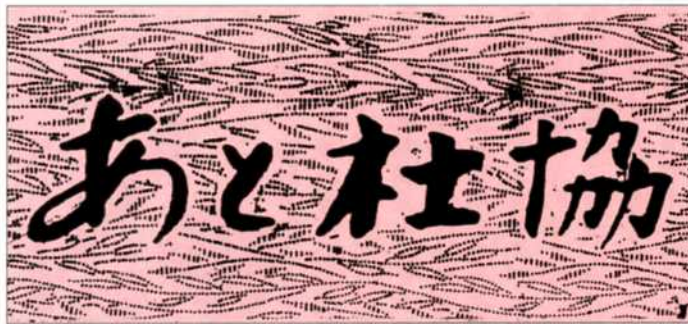




会報第128号

平成27年 2月25日発行

阿戸地区社会
福祉協議会
広島市阿戸福祉センター内
電話 856-0294

阿戸町の世帯・人口

世帯数	946戸
人口	2,246人
男	1,107人
女	1,139人

(平成26年12月末現在)

新年のあいさつ

阿戸地区社協 会長 松田 康憲

新年明けましておめでとうございませう。皆様には明るく希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、最近阿戸町ではおめでたいことが続いております。一昨年の阿戸小中学校一体型校舎

改築工事の落成、昨年は、「亀山八幡の祭はやしの行事」が広島市の重要無形文化財に指定、そして今年の4月には、認定こども園が開園予定です。

そのおかげで、子ども達は、今元気で学び、高齢者の方々は



江戸時代より伝わるとされる、阿戸町亀山八幡神社の「祭りはやし」

はじめ地域との交流も一層深まっております。文化財を後世に引き継ぐとする機運も高まっております。そして、こども園で0歳から15歳までの教育のスタートが始まる喜びを次第に感じております。

これも、阿戸町には教育、文化、福祉など各方面にわたって、自分たちの地域は自分たちで良くしていくという強い力があるからこそ、生まれてきたものです。

昨年12月13日、広島市長が阿戸町を視察され、案内役を仰せつかりました。そのお礼の手紙に、「今回の視察で阿戸の地域を心から愛し、より良くしていくことががんばっておられる皆様方の熱意に触れ、また様々な取り組みを拝見したことで、市内の中山間地域が工夫次第で宝の山になり得ることを改めて実感いたしました」と書かれていました。

今年もみんなが幸せを実感できる宝の山を目指して一歩一歩、歩んでいくではありませんか。



「安芸の郷」施設見学

平成26年10月23日(金)

地域福祉部会 藤田まゆみ

阿戸町民まつり当日に福祉センター玄関横の定位置で、パン、ケーキ、ジャムや絵雑巾等を販売しておられる事は知っていましたが、この度初めて施設見学をする機会を得ました。

「安芸の郷」が運営する工房や短期入所施設においての生産活動、就労支援活動、余暇活動を通じて、知的障がい者や精神障がい者の働く場となっています。どの作業場でも皆さんがテキパキと慣れた手つき、手順で作業をしておられ、安心して気持ち良く働ける環境の大切さを見せて頂きました。

利用者の自立を促進することを目的として、彼らが作った製品を販売し、企業からの仕事の受注も行っています。遊川理事長は「日々のこうした活動を何よりも大切にしています。」と話しておられました。



児童・障がい児者部会

高山 義昭

中学3年生が企画、準備をしてくれ、和やかなふれあい交流会を開催しました。今年も昨年と同じように5つのテーブルに生徒20人、高齢者28人がそれぞれ分かれて座りました。開催に当たっても生徒たちが受付、案内、お茶の接待をしてくれました。交流会の進行でも高齢者から、広く話を求めるなどの工夫が凝らされていました。この交流会を開催するに当たり、老人クラブ、ほこり会、民生委員の方たちのご協力を頂きました。厚くお礼申しあげます。



中学3年生と 高齢者との 交流会

平成26年11月12日(水)

阿戸中学校3年

木曾 紘稀

僕は今日、高齢者の方と話をしました。高齢者と言ってもまだまだ元気な方がいました。その話の中で一番印象に残った話は、昔の阿戸中学校や戦争の話でした。昔の阿戸中学校の授業では、山から土を運んできて、イモを作っていたということです。昔は食料が必要だった時代なので、少しの量で空腹を満たせるイモは貴重だという話でした。そして、今の日本にはない戦争の話を聞かせて頂きました。戦争中は毎日、B29が飛んでい

たことや、焼夷弾と呼ばれる広い範囲で火事を起こす危険な爆弾の話などを聞かせて頂きました。これらのことから、僕達は戦争もなく、食料も簡単に手に入る平和な時代に生まれてきたことに、とてもありがたみを感じました。今、自分達が生きている阿戸町は長い年月をかけて作り上げられてきた、とても温かみのある町なんだと実感しました。



阿戸中学校3年

岡田 遥

高齢者の方との交流会。私は受付をしました。挨拶をする時は笑顔で迎え、明るく振る舞う、それだけなのに最初は少し恥かしく表情がなくなっていました。でも、だんだん慣れてきて最初とは違う挨拶ができるようになりました。私はその少しの事だけでも高齢者の方との距離は縮められたと思います。そして交流会が始まり班ごとに分れて、質問をしたりしてたくさんのお話をしました。初めは少し緊張して話が続かなかっ

たのですが、おじいちゃん、おばあちゃんの方から話しかけて下さったりして会話が続くようになりました。阿戸町の良い所などたくさんのお話を聞けて楽しかったです。

小・中学生共に地域の方にはたくさんお世話になっていきます。登下校の時の見守り、しめ縄作り、体育祭、文化祭など阿戸町の行事だけでなく、参観日の時には授業を見に来て下さったりと、お世話になってばかりです。これからは私たちも地域の方のために何かをするべきだと思います。この阿戸町にいる限り、今までお世話になった分、恩返しをしていきたい、この会を通じて改めて思いました。

阿戸中学校3年

佐藤 彩音

今日の交流会は、高齢者の方と色々な話をたくさんすることができました。私が今日の話を聞いて心に残った話が二つあります。一つ目は、昔の阿戸町についてです。私は、話を聞いてとてもびっくりしました。何故なら、昔の阿戸町は豆腐屋さん、駄菓子屋さん、魚屋さんなどたくさん

んのお店があったと聞いたからです。

今の阿戸町からは考えられないような阿戸町を聞いたのでとてもびっくりしました。今も昔も変わらないのが、交通が不便だという事です。「バスの本数は住民が減らしている。」私はこの言葉が心に残りました。今、子供の送り迎えも全部車でするので、バスの本数が減るのは仕方ないと思いました。

二つ目は、中学生に対しての言葉です。私たち中学生のイメージを聞くと、「自分から挨拶をあまりしない。」という言葉が返ってきました。私は、今まで挨拶はよくしている方だと思いましたが、地域の方からは小学生の時の方がよくしていると言われたので、これからはもっと挨拶をしようと思いました。

今日は、めったに話したり、聞けない話ができて、本当に良かったと思います。アドバイスを活かしてこれからも過ごそうと思いました。



阿戸中学校3年

本森 涼風

ドキドキする中で始まった高齢者との交流会。数々の質問があった中で、一番話されていたのは、やはり戦争のお話でした。ちょうど私たちの年代の時に戦争をしていたのだそうです。空を飛ぶB29等の飛行機や、爆弾が落とされている瞬間がこの阿戸町で目撃されたそうです。又、原爆のキノコ雲もこの阿戸町で見られたそうです。

二番目に話が盛り上がったのは、カープのお話です。球団ができた時からのファンだった皆さんにとって一番嬉しかったのはやはり優勝だったそうです。胸上げが行われたりして喜びを分かち合ったりしたそうです。今回は、人生の先輩である高齢者の皆さんにいつもは聞けない貴重なお話を聞くことができました。これからの自分の人生に役立つことだと思います。



阿戸中学校2年

高橋 香織

私はしめ飾り作りをして、地域のひととの交流やお話ができ良かったと思いました。

私はしめ飾り作りをするまでしめ飾りがどんなものか知りませんでした。けど地域の人の話を聞いて、どうしてしめ縄と言われるようになったかや、神社の「しめ縄」を装飾化したものであるという事を知ることができました。

地域のひとにどうやってしめ飾りを作るのか説明していただく時には、手本を見せてもらったり、どうすれば中に入れるアンコが出ないようにわらで包めるのか等、色々なことを分かり易く教えていただきました。

阿戸町は地域のひとと接する機会が多いです。地域のひととコミュニケーションをとることで、困った時には互いに助け合うことができます。これからもしめ飾り作りなどの取り組みを続けてほしいと思いました。

阿戸中学校2年

是松 彩紀

初めてしめ飾り作りをしました。最初は簡単にすぐ作れるものだと思っていました。でも、作り方を聞いてびっくりしました。わらでぐるぐると編んであるだけでなく、中に「あんこ」という物を入れながら編んで行かなければならない事を知りました。自分にできるかなと思っていたら、地域の方がやさしく教えて下さったのでできました。とても力のいる作業で、私は少ししか持っていなかったのに、とても手がいたくなりました。でも地域の方は私の分だけでなく、他の子の分まで作って下さったのでとてもすごいなと思いました。

私は、しめ飾り作りという貴重な体験をさせてもらい嬉しく思いました。このような貴重な体験は、めったにできることではないので、これからもずっと続けていってほしいと思います。

阿戸中学校2年

反田 凜

私は、児島さんという方に作り方を教えてもらいました。雑談をまぜつつとてもキレイな、



しめ飾りを作ることができました。私は、しめ飾りを作りながら、いろいろなことを教えてもらいました。例えば、ヒモの巻く回数は、偶数より奇数の方がいいことや当日まで、みかんやシダの葉はすぐダメになってしまうのでギリギリまでつけない方がよいなどと教わりました。

しめ飾りを作るのは今回が初めてだったので、とても良い体験になりました。私は最初に自分ができることなんてあるのかなあと思っていたけど、児島さんがどこを持っててや、この部分を切っておいてなどを積極的に指示して下さいだったので児島さんと一緒に完成することができてよかったです。また、機会があれば、しめ飾り作りをしてみたいなあと思いました。

福祉活動に
ついでに勉強会

平成26年11月21日(金)

児童・障がい児者部会

松田 英子

深まりゆく秋、「あと会」の近藤弘美様を講師にお招きし、社協役員の福祉活動勉強会が開催されました。

福祉とは、皆様ご存知でしょうか。(ふ)つうに(く)らせる(し)あわせの中に、見いだされるものだそうです。普通に暮らせる幸せは、日々の生活の中では、当たり前のように思われがちですが、継続されることの難しさに、当たり前を感謝しなくてはと、改めて考えさせられました。

2025年には団塊の世代の人たちが、後期高齢者の仲間入りをします。それまでに、多くの高齢者の方だけではなく障がいをお持ちの方や、子どもを含む地域の全ての人々が、自助・互助・共助・公助のもと、地域包括ケアシステムを構築したいものです。また、住み慣れた地域で、いつまでも共に生活ができるよう、助け合い・支え合いをみんなで考えなくてはと、この勉強会を通して学ばせていただきました。

広島市域地区社協役員等実践講座

平成26年12月12日(金)

広報部会 宇野 耕次

可部町の安佐北区総合福祉センターにおいて、市内各地域からの参加者120名を迎え、「被災地域の実践から学ぶ」と題した研修講座が開催されました。で、安芸区の一員として参加してきました。去る8月20日未明に発生した土砂災害に地域の自主防災会がいかに対応したかという内容で、各地区にボランティアセンターを立ち上げた災害NGOの代表から安佐北区の災害状況の概要と、ボランティア



アと各地域の連携が上手くいったこと等の紹介があり、特に被害の大きかった可部東地区、三入地区、大林地区の自主防災会長より、自分達が行った災害対応について発表がありました。

初めて経験した大災害に戸惑いながらも、自主防災組織として活動された経験に実例を交えながら発表されました。もし、阿戸町でこのような災害が突如発生した場合、我々の自主防災会が果たして上手く機能するの

赤い羽根共同募金

今年度の募金で、阿戸町では皆様の絶大なるご協力により、二六五、五二〇円集まりました。

この募金は広島市で一括して、福祉を推進するために有効に活用されます。ご厚志まことにありがとうございます。



善意の灯

次の方々から、ご寄付をいただきました。この善意は住民福祉活動のため、有効に活用させていただきます。

ご厚志、まことにありがとうございます。

◆香典の返礼にかえて

金山 光治様
溝手 哲也様
上岡 泰則様

◆見舞いの返礼にかえて

大本 智恵子様

◆一般寄付

阿戸町 女性会様
野地 陵二様

●阿戸地区社協のつぎ

金婚祝い慶祝訪問

【本年度申請なし】
しめ飾りづくり (中学2年生)

11/22

正副部会長会議

1/28

高齢者・ボランティア部会
「あと社協」128号発行

2/25

園児と高齢者のひな祭り交流会

3/4

中学3年生卒業記念品贈呈
正副部会長・事務担当者会議

3/12

ウォークラリー大会

3/15

小学1年生入学記念品贈呈
正副部会長・事務局長会議

4/8

お気軽にご相談下さい

毎週金曜日(第5は除く)午前中

阿戸地区社協では、皆様の困りごとやボランティア活動の相談に応じています。

買い物代行

子守り

話し相手

など
どんなことでも
まずはご相談下さい。

編集後記

昨年は各地で自然災害による人的、物的被害が多かった。火山の噴火、地震、集中豪雨による大規模な土砂崩れ、河川の氾濫、台風、竜巻、突風、高潮、大雪、暴風雪等々、あらゆる災害が全て、日本列島を襲った感がある。又、災害には至らずとも、大晦日は雨、元旦は雪となり、空陸の交通が混乱した。

元旦にこのような荒天は近年なかったように思う。阿戸町内も盆踊りが雨で中止となり、元旦の風物詩、65回を誇る伝統ある駅伝大会も雪で中止となった。

二大行事が続いて中止になるようなことは無かったように思う。羊年で穏やかな年になると思ったが、先が思いやられる。嘆いていても始まらないが、自然と向き合い、限界はあるものの減災に努めたい。何よりも災害が起きぬよう願うばかり。

(広報部会 中川光利 記)

監査会

第1回理事会

定例評議員会

◎毎月(第2土曜日) 配食サー

ビスの実施